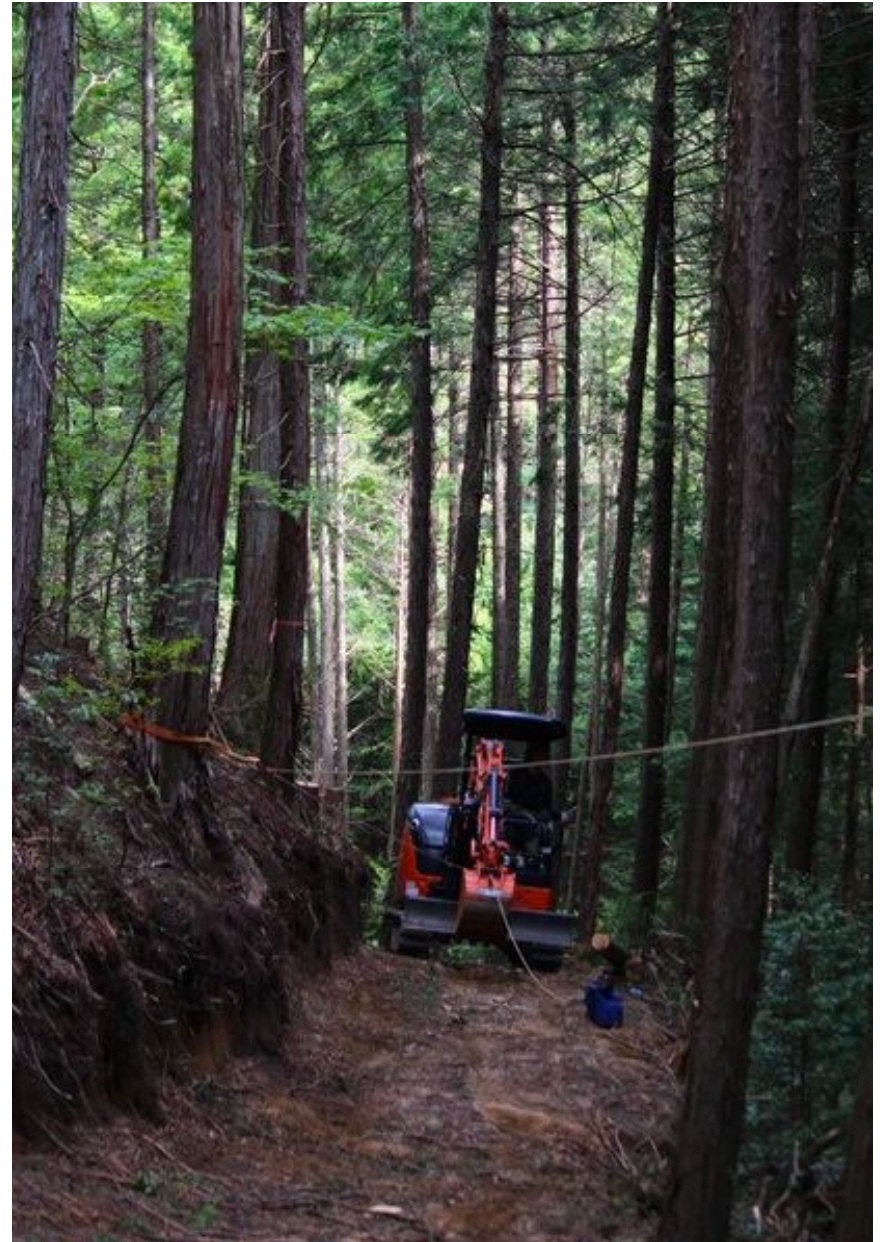


森をデザインする

株式会社comorebi

伊集院 祐亮



暮らしのそばに、
森を。



A person wearing a grey shirt, dark pants, and an orange helmet is bent over in a forest, using a chainsaw on the ground. The forest has many trees and green foliage. In the background, another person in a red shirt is visible. The text "木こりとの出会い" is overlaid in the bottom left corner.

木こりとの出会い

人工林の齢級別面積

(千ha)

2,000

1,000

0

収穫適齢期を超えた人工林

昭和60年

令和4年

齢級

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

資料：林野庁 森林資源現況調査
グラフ作成：森林・林業学習館

64%

データ：森林・林業白書（林野庁）

日本の林業が抱える深刻な課題

複雑に入り組んだ所有構造

小さな所有者が多く、
所有が細分化・分散している



境界もわからない山

境界が不明確で、
隣接地との調整に時間とコストがかかる



急峻な地形で整備が進まない路網

山が急で、作業道や林道の整備が難しく、
コストが高つく



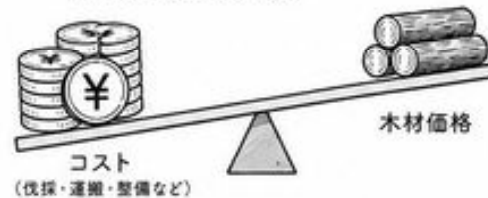
深刻な担い手不足

高齢化が進み、若い人材が不足。
将来の担い手が見つからない



上がらない収益性

コストに対して木材価格が安く、
収益が上がらない構造



断絶してしまったサプライチェーン

川上から川下までのつながりが弱く、
安定した流通・供給ができていない



目先の利益を優先した乱伐や、切ったあとの再造林放棄

乱伐による山の荒廃や、再造林されない山が増え、森林の未来が危うい

乱伐(目先の利益優先)



再造林の放棄



このままでは、森林の価値も
地域の未来も失われてしまう

持続可能な林業の実現に向けて、
構造的な課題解決が必要です。



続いていくまちの
「温度」と「手触り感」



森はある。でも森との関係がない。

恵那の森と、私たちの暮らしの今

ある

今も、恵那には森がある



豊かな森林がある

恵那には広大な森林が広がっている。



自然の恵みがある

木々、落ち葉、土、水…
多くの恵みを生み出している。



森の資源がある

木材、間伐材、落ち葉など、
活かすことができる資源がある。

ない

でも、私たちの暮らしとの関係はない



薪を使わなくなった

かつては当たり前だった
薪のある暮らしがなくなった。



落ち葉を堆肥にしなくなった

落ち葉を集めて堆肥にする
知恵や習慣がなくなった。



山へ入る機会も減った

山に入ることが少なくなり、
森を身近に感じる機会が減った。



暮らしの中に森がない

木を使う場面が減り、
森を意識することがなくなった。



ハレの舞台を恵那の
木が彩る

林地残材→ウエディングケーキ台

給食の食べ残し堆肥化 実証実験

恵那特支校で市 SDG s 教育推進



生徒たちが「コンボくん」と名付けて手作り看板を立てたコンポスト＝恵那市岩村町で

恵那市はSDG s（持続可能な開発目標）教育の推進やごみ削減のため、同市岩村町の恵那特別支援学校で、給食の食べ残しをコン

ポストで堆肥化する実証実験に取り組んでいる。地元企業「comorebi（コモレビ）」のコンポストを使い、地域循環モデル

の構築を目指す。

市によると、同校から出る給食の食べ残しは年間約3ト。コンポストは幅90センチ、高さ60センチ、奥行き60センチで、中学部で運用を始める。10月までコンポストへの食べ残しの投入や計量、観察などを行い、満杯になったら熟成させ、量に応じて3台まで増設する。

10月以降、生成された堆肥を学校の花壇や畑で活用する予定。生徒たちは設置から携わり、装飾を「コンボくん」と名付けた。「みんなと一緒に毎日、愛情と友情を込めて入れる」「とてもエコだと思う。（できた堆肥を使って作る）野菜を食べに来てほしい」と仕上がりを楽しみにしている。（石川才子）

恵那市

×

恵那特別支援学校

×

comorebi

もったいないの掛け合わせ

恵那特別支援学校

給食の食べ残し
年間**3,000kg**

「生徒が実感できるSDGs を」



森と学校の課題を噛み合わせる



間伐材コンポスト

地域材をプロダクトに
堆肥化の「器」として活用



生きた環境教育

ゴミを資源に変えるプロセスを
生徒自らが主役となって体験



給食の残りが土になる
ラザニアコンポスト

1年で約3,000kgの給食の残りを土にかえます

給食の残りが土になる～ラザニアコンポスト～

1年で約3,000kgの給食の残りを土にかえます

4月27日 コンポスト設置式



恵那市(明智町)の杉材を使用



当日の給食を入れる

日々



名前をつける

単なるごみ箱ではなく
愛着を持って接する



観察と記録

分解の様子を毎日観察し、重さを
計る。科学的な視点が育つ



学びの芽生え

自分たちの手で資源に変える喜び
が、誇りへと変わる

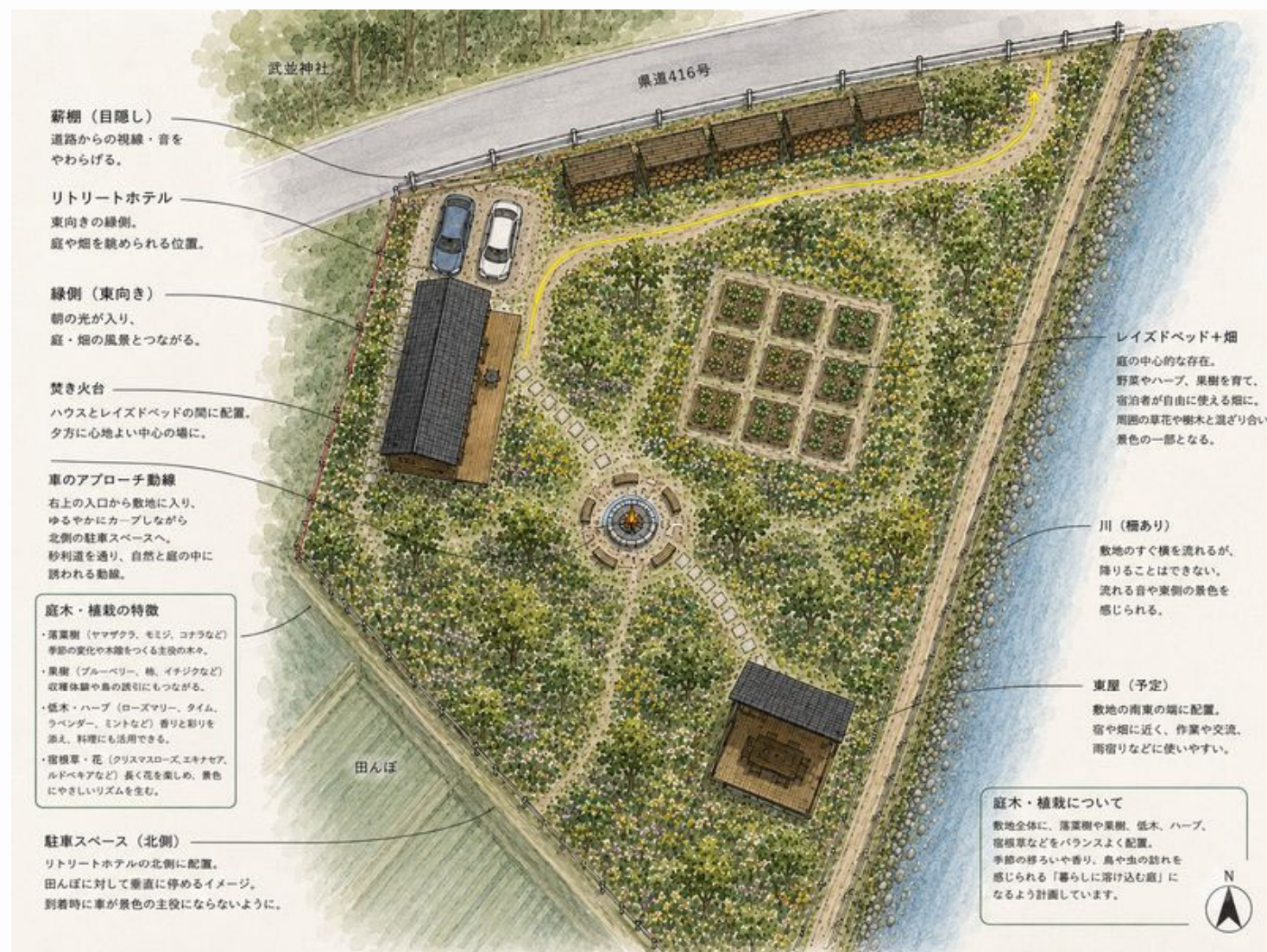
企業スポンサー制度（まもなくリリース）

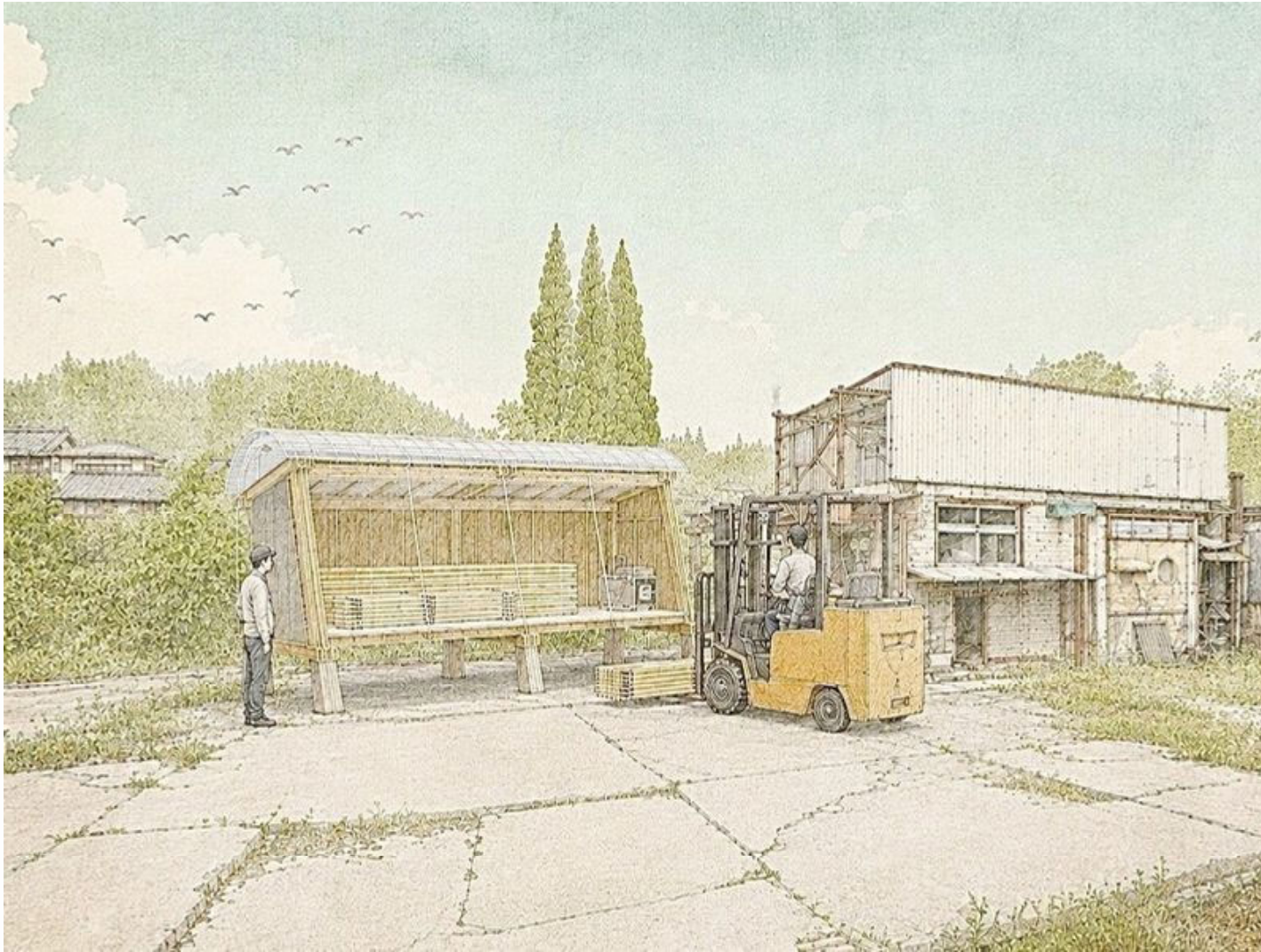


短尺材・杉材を製材し加工する

単なる道具を越えて、
地域の循環を支える装置へ

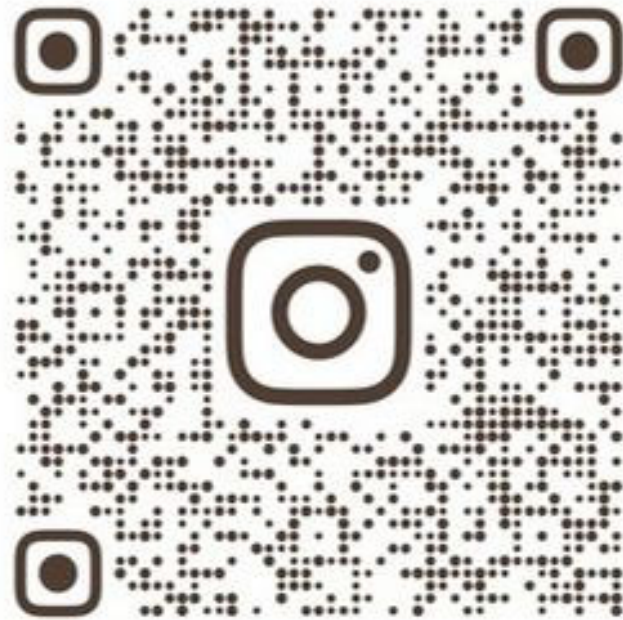
来春オープン予定の リトリートホテル





パッシブデザインの
「木材低温乾燥室」

活動実績
Instagram



@comorebi_ena

